

# まほろば



2018.9  
第205号

## おもいやりの心届けます



30年度の看護部目標に「優しさと思いやりの心を大切に、安心して安全な医療を提供します」と掲げ活動開始からもうすぐ半年が経過しようとしています。

4月から改訂された診療報酬の仕組みを読み解き、加算の取得や看護必要度の適切な評価をすること、入院・外来共に患者さんが高齢化し、転倒・転落事故防止対策にと走り

り続けてきた感じがする半年でした。

そんな中、患者さん、ご家族の皆様からの退院時アンケートやご意見箱には、看護職員の態度や身だしなみ、ケアの際の心配りの不足等について心痛むご意見をいただくことがあります。確かに、各部署をラウンドしていると、どこか、職員が硬い（怖い？）表情で行き交い、温かな空気とは言いがたい病棟が多いと感じることがあります。

私達、看護職員は患者さんに優しさと思いやりの心をもって接する専門職業人です。

慌ただしく時間を過ごす中にも、職員が立ち止まり、自分の行動や言葉が患者さんや他の職員に対してどう影響しているか振り返る機会を意識的に作らなければなりません。そんな意図で看護部室から「思いやりの心届けます」活動開始の宣言をしました。

各部署一ヶ月交替で標語やディスプレイを作成し「思いやりの心届けます」啓蒙活動の発信源になってもらい、患者さんに優しい思いやりのある行動につなげていきたいと思います。

看護部長：高橋 香

7月 看護部長室作成標語

ナースコールお待たせせずに「はい、伺います」  
優しい笑顔と気配りで顔晴ります

8月 7階病棟作成標語

身だしなみ心を映すおもてなし

9月 3階病棟作成標語

笑顔を添えた言葉がけ マスクをしても伝わる心  
心を添えた言葉がけマスクをしても伝わる笑顔

# 未来へつなぐ看護体験 ～高校生一日看護体験～

猛暑が続く平成30年8月1日（水）青森県看護協会主催の高校生一日看護体験が行われました。この日は弘前ねぶたまつり開催初日で市内に熱気が感じられる中、看護師志望の熱い思いを抱く18名の高校生をお迎えしました。

参加者は全員白衣に身を包み、緊張した面持ちでオリエンテーションに聞き入っていました。その後は各病棟に別れ、実際に洗髪や足浴等、看護体験を通し患者様とふれあい、終了する頃には、

自然に笑顔が見られるようになっていました。患者様から直接感謝の言葉を聞き、「人のためになるやりがいのある仕事につきたい。」「更に看護師になりたいと感じました。」と短い時間の中でも看護への志しを強くすることができたようです。

また私達も高校生の感想を聞き、看護の仕事に対する誇りを改めて感じ、看護を志す未来を担う後輩達のお手伝いになれた事を嬉しく思いました。

6階病棟副看護師長：倉内 千賀子



## 地域医療研修

7月24日、当院大会議室にて「地域で“食べる”を支える～口腔ケアと食事介助の実際～」と題し、第2回弘前病院地域医療研修会が開催されました。院外の施設や医療機関から介護福祉士、看護師、栄養士、ヘルパーなど31名、院内から10名の参加がありました。

はじめに薬剤師から簡易懸濁法のメリットや投与方法の説明があり、次に言語聴覚士による嚥下障害、口腔ケア、食事介助について実践も交えながらの講義が行われました。

参加者からは「30° 仰臥位頸部前屈位」の姿勢について質問や意見がありました。食事介助時の最も安全な姿勢とされていますが、円背や麻痺がある場合、嚥下機能の状態によってはこの限りではありません。個々の患者様に適した姿勢で食事介助することが重要です。言語聴覚士のいない施設も多いと思いますが、「現場に役立つ研修会でした」「今後の食事介助に活かせる」などの感想が寄せられ、今後の職務に役立てていただければと思います。

言語聴覚士：白川 ミミ



## 「本場の味を目指して」

栄養管理室では、「栄養は全ての治療の基本である」をモットーに、1日3回×365日、安全でおいしい患者さんに喜んでいただける食事の提供を目指しています。

定期的に食事アンケート調査を実施し、お食事に関するご意見を頂戴しています。昔は「病院の食事は冷めていて美味しくない」と言われることも多かったのですが、今では「温冷配膳車」という保冷と保温が同時にできる車を使用し、温かい料理は温かく、冷たい料理は冷たいまま患者さんのもとへお届けすることが可能となりました。

当院では毎月、旬の食材を使用した料理や日本各地の郷土料理を取り入れたお楽しみ献立の提供

を行っています。食材の選定から調理工程や味付けについて栄養士と調理師で考え、本場の味に近づけながら大量調理向けにアレンジを行い、弘前病院オリジナルメニューを作成しています。一例をご紹介しますと、夏野菜をたっぷり使った「夏野菜カレー」、盛岡の「じゃじゃ麺」、秋田の「稲庭うどん」の提供を行いました。今後も患者さんのご意見を参考にさせていただき、楽しみにしていただける食事を提供できるよう工夫して参ります。

次回のお楽しみ献立は、日本を飛び出して韓国料理「ビビンバ」の提供を予定しています。どうぞお楽しみに！

栄養士：伊藤 菜津貴



稲庭うどん～天ぷら添え～



盛岡じゃじゃ麺

## 研修医便り

初期研修医1年目の藤原智之です。出身は東京都ですが母が青森出身であり、小さいころから何度か青森には遊びに来ていて、ねぷたや桜まつりが好きになり大学からは弘前に来ました。

4.5月は外科で研修をして創傷の処置やCVポート、術後の管理等を学ぶことができ、6.7月は呼吸器で研修をし、抗生剤の使い方や風邪などといった common diseaseへの対応、また、CPAの患者さんの対応等を学びました。初めてCPAの患者さんを目の前にしたとき、自分はなににもできずとても悔しい思いをしました。8月は大学病院の循環器で研修をさせてもらっており、9月は大学病院の救急で研修をさせてもらう予定です。多くのことを学び、今後に活かしていきたいです。

指導医の先生方にはご多忙にも関わらず基礎的な知識から丁寧にご指導いただき、研修医の先輩方からはどのようにすれば戦力の一員として僅かでも貢献できるかをご教授していただきました。周りに恵まれた研修生活を送っており、今後も頑張っていきたいと思っております。

臨床研修医：藤原 智之



# 外来診療一覽

## ◆外来医師診療一覽表 (2018年9月1日現在)

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器内科		熊本 秀 樹	横 田 貴 志	熊 本 秀 樹	熊 本 秀 樹	熊 本 秀 樹
呼吸器科		中 川 英 之	山 本 勝 丸	中 川 英 之	山 本 勝 丸	中 川 英 之
		山 本 勝 丸	下 山 垂 矢 子	下 山 垂 矢 子	下 山 垂 矢 子	下 山 垂 矢 子
		下 山 垂 矢 子	田 中 佳 人	田 中 佳 人	—	田 中 佳 人
消化器・血液内科		—	石 岡 佳 子	—	—	—
		松 木 明 彦	相 原 智 之	相 原 智 之	松 木 明 彦	相 原 智 之
		山 口 公 平	山 口 公 平	松 木 明 彦	山 口 公 平	山 口 公 平
		佐 藤 年 信	千 葉 裕 樹	佐 藤 年 信	安 田 耕 平	佐 藤 年 信
小児科		石 黒 陽	石 黒 陽	千 葉 裕 樹	石 黒 陽	石 黒 陽
		杉 本 和 彦	佐 藤 工	敦 賀 和 志	佐 藤 工	杉 本 和 彦
		敦 賀 和 志	梅 津 英 典	佐 藤 啓	梅 津 英 典	佐 藤 啓
	遅野井 香純	—	—	—	遅野井 香純	
外科		柴 田 滋	山 名 大 輔	柴 田 滋	山 名 大 輔	三 上 勝 也
乳腺外科		小田桐 弘毅	小田桐 弘毅	小田桐 弘毅	小田桐 弘毅	小田桐 弘毅
整形外科	午前	佐々木 規博	秋 元 博 之	秋 元 博 之	藤 田 有 紀 受付10時まで	秋 元 博 之
		飯 尾 浩 平	飯 尾 浩 平	佐々木 規博		佐々木 規博
		藤 田 有 紀	太 田 聖 也	藤 田 有 紀		飯 尾 浩 平
脳神経外科		—	—	木 村 正 英	—	—
皮膚科	午前	熊 野 高 行	佐 藤 正 憲	佐 藤 正 憲	熊 野 高 行	熊 野 高 行
		佐 藤 正 憲	熊 野 高 行	熊 野 高 行	佐 藤 正 憲	佐 藤 正 憲
	午後	● 予 約	● 手術/検査	● 予 約	● 手術/検査	● 予 約
泌尿器科	午前	成 田 拓 磨	成 田 拓 磨	成 田 拓 磨	成 田 拓 磨	成 田 拓 磨
	午後	検 査	検 査	手 術	検 査	手 術
産婦人科		飯 野 香 理	丹 藤 伴 江	丹 藤 伴 江	● 妊婦健診 (一般外来休診)	飯 野 香 理
		松 村 由 紀 子	小 玉 都 萌	松 村 由 紀 子		石 原 佳 奈
眼科		蒔 苗 順 義	蒔 苗 順 義	蒔 苗 順 義	蒔 苗 順 義	蒔 苗 順 義
耳鼻咽喉科		西 澤 尚 徳	西 澤 尚 徳	休 診	西 澤 尚 徳	西 澤 尚 徳
		三 國 谷 由 貴	山 内 一 崇	—	—	—
放射線科	診断	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄
	治療	—	—	川 口 英 夫 (午後)	—	川 口 英 夫 (午後)
女性専用外来		杉 本 菜 穂 子 (※予約制/第1・第3水曜日午後診療)				
セカンドオピニオン		—	—	—	休 診	—

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

※ セカンドオピニオン外来は当分の間休診となります。

### 患者相談窓口

『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

## お知らせ

### 編集委員会より

当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して歩む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。皆さまから病院に対して『不安なことや不満足なこと』『ご批判やご指摘』また、『お褒めのことば』を職員一同お待ちしております。

発行元



Hirosaki National Hospital  
独立行政法人国立病院機構

弘前病院

責任者：副院長 小田桐 弘 毅

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地  
TEL 0172-32-4311  
FAX 0172-33-8614  
URL <http://www.aoi-mori.net/~hirosaki/>